

今月、干城を語っていただくのは「ひまわり乳業（株）」の吉澤社長です。吉澤社長は歴史にも造詣も深く、干城にも詳しいとお聞きし出筆をお願いしました。それでは、吉澤社長の干城像をご覧ください。

きょうじ 矜持の人 吉澤文治郎(南国市・ひまわり乳業(株)代表取締役社長)



谷干城。私が最も尊敬する郷土の偉人の一人。矜持の人、谷干城。

過激な攘夷論者であった若者は、優秀な軍人を経て、政治家となる。そして、西欧を視察し、国の将来に目を開いた。

西欧を周る中で、日本という国が、将来のためにどうあるべきかを見つける。その思想は、自由な言論無き国は衰退する、国際社会の不評を買うような過度の対外進出は日本の将来にとってマイナスでしかない、という信念となり、それからの生涯、決して変わることはなかった。貴族院を主戦場にして、居並ぶ明治の元勲相手に一步も引かず、意見を主張して止まない。いつも念頭にあったのは、国の将来のこと。国民の将来のこと。ほとんどの国民が、その空気感の中で賛成し、戦勝に沸き返った日露戦争に、敢然と反対した谷干城。日露戦争に勝ったとしても、日本の領土的野心が列国の警戒心を強め、敵に回してしまうことになる、という主張は、当時の政界やマスコミから嘲笑われた。年寄りの妄言だと。しかし、決して論を変えない。矜持。

日露戦争後に語った次の言葉は、その後の日本の歴史を知って居る我々の胸に強く響く。

谷干城の足あと

町内をはじめ全国には、谷干城の功績を称える史跡が残されています。この特集では、各地にある干城に関する史跡などを紹介し、干城を顕彰していきます。

谷干城 銅像(熊本市高橋公園内)

四万十町の像は強化プラスチックですが、熊本は銅像です。熊本の像も戦前に金属供出されましたが、明治100年(昭和44年)を記念して再建されました。戦前の像、彫刻家「朝倉文夫」の作品を復元しています。

以前は、天守閣前に設置していましたが、本丸御殿再建のため現在地に移されました。「熊本市に貢献した市長名がついた特別な公園。その中央に移したのは市民が干城の功績を認めているから」と、市役所の方はおっしゃっていました。



熊本市の谷干城銅像

「日本人は一般に馬鹿に見える、又狂気じみて居ようである。どうも我輩にはそう見えるが、世間では『また谷は頑固で馬鹿である』などと云っているかも知れぬ。しかし何方が馬鹿であるか、狂気じみて居るかは、将来に於ける事実の審判を受けねば知れぬが、一度は必ずわかる時節が来るに相異なるから、刮目して見て居るがよいさ」

言うべきは、相手が誰であれ、言う。決してポピュリズム(※)に流されない。権力に迎合しない激烈な反骨精神。信念の先には、国の、国民の幸せが必ずあった。

(※) 大衆に迎合して人気をおおる政治姿勢

今の日本に一番必要なのは、谷干城のような政治家だと思う。



干城の別荘地跡(高知市三谷)から高知市街を眺める吉澤社長



熊本県

田原坂西南戦争資料館(熊本市北区植木町)

熊本城から車で30分ほど行ったところにある資料館です。館の前には弾痕跡が残る土蔵もあり西南戦争の激戦が実感できます。館内は、西南戦争の背景や経緯を分かりやすく展示していて、干城の熊本城籠城戦も説明しています。

入口には「西郷隆盛」と「谷干城」をモデルにした記念写真用の顔抜きパネルがあり、両軍の大將になって記念撮影ができます。



干城と「西郷どん」で記念撮影



特集

四万十町が生んだ偉人

谷干城

KANJO TANI



時代は土佐の山間より



平成30年(2018)は、明治維新(1868)から150年目にあたります。

四万十町通信は、幕末の志士・明治の元勲「谷干城」の生涯や史跡などを8月から4回にわたり紹介しています。今回の「谷干城の生涯」は、干城の名を全国に知らしめた「西南戦争」までの活躍を紹介します。

谷干城の生涯

【第3回】維新～西南戦争(1868～1877)(著:林一将)

1 戊辰戦争での功績

戊辰戦争では、会津藩ら旧幕府方は対抗の立場をとり、新政府は奥州征伐を行います。干城は大軍監として、総督の板垣退助を支え、宇都宮・日光を経て会津若松城を攻め落とします。

ここで干城の功績を一つ紹介します。幕府軍が日光東照宮に籠り抵抗。板垣が攻撃と決めた時、干城は日光の僧らと交渉し、「尊い歴史ある神廟に攻撃、砲火は忍びない」と僧らに幕府軍退去を説得させました。今でも日光東照宮が、尊厳ある文化財として国民に親しまれているのは、干城の功績です。



戊辰戦争での干城の軍功を賞する藩主の感状(高知城歴史博物館)

2 干城軍務に尽くす

戊辰戦争後は、高知藩少参事として藩政改革に努めますが、後藤象二郎や板垣退助との政争に敗れ失脚します。しかし、周囲の要請もあり明治4年4月に復職し「藩兵改革」を行います。このとき干城は、「藩」から「国」を中心とした体制に代わると認識、藩兵を政府の「御親兵」にするべく改革を断行しました。

6月には、藩兵を率い政府に出仕、「兵部権大丞」を拝命し軍務に尽くします。翌月、廃藩置県が行われ、政府を中心とした体制が確立します。



軍人・干城

3 最初の「熊本鎮台司令長官」

明治5年、政府は兵部省を「陸軍省」「海軍省」に改め、干城も「陸軍裁判長」、翌年には最初の「熊本鎮台司令長官」に転じます。



熊本鎮台司令長官の辞令(明治6年)

干城が熊本で努めていたところ、中央では征韓論に破れた西郷らが下野、明治7年2月の「佐賀の乱」を誘発します。干城は3月にこれを鎮圧、5月には台湾へ出兵し指揮します。明治8年、政府の対応への不満から鎮台司令長官を辞職します。

4 西南戦争

鹿児島では、西郷らが「私学校」を開き、彼を尊敬する士族と政府が対立していました。政府は事の重大性を感じ、明治9年11月、再び干城に「熊本鎮台司令長官」

を命じます。そして、明治10年の「西南戦争」を迎えました。西郷軍は1万3千の精鋭を率い、熊本へ向かいます。対する干城の鎮台兵は、徴兵された農民兵3千で「クソチンダイ」と軽蔑されていました。干城は勝ち目のない戦いを避け、籠城戦をとりま



熊本城で西郷軍と対峙

5 干城、西郷を止める

干城と鎮台兵は一致して西郷軍にあたり、これを防ぎました。また、干城はこの窮状を援軍に伝える役を「谷村計介」に託します。彼は役目を果たし、援軍を田原坂まで案内後に戦死しました。くま子夫人も食料が乏しい中、雑草でおひたしを作るなど干城や兵を支えます。

こうして干城らが五十余日、城を死守したことで西郷軍の敗走につながり、干城の名は日本中に知れ渡ります。



「軍人亀鑑碑」谷村計介の功績を称え干城が建立(東京都九段会館前)